

第43回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 甲工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 現金過不足として処理していた¥37,000は、本社事務員の旅費であることが判明した。
- (2) 本社建物の補修を行い、その代金¥970,000のうち¥388,000は現金で支払い、残額は翌月払いとした。なお、補修代金のうち¥450,000は修繕のための支出であり、残額は改良のための支出である。
- (3) B社株式を¥1,700,000で買い入れ、代金は手数料¥40,000とともに小切手を振り出して支払った。
- (4) 現場へ搬入した建材の一部（代金は未払い）に不良品があったため、¥35,000の値引を受けた。
- (5) D社に対する貸付金の回収として、郵便為替証書¥62,000を受け取った。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 現金過不足	D 小口現金	E 受取手形
F 有価証券	G 貸付金	H 仮払金	J 材料	K 建物
L 未払金	M 工事未払金	N 預り金	Q 支払手形	R 材料費
S 経費	T 修繕維持費	U 旅費交通費		

〔第2問〕 次の原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。（12点）

原価計算表

（単位：円）

摘 要	101号工事		102号工事		103号工事	104号工事	合 計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材 料 費	235,000	× × ×	102,000	115,000	96,000	168,000	794,000
労 務 費	× × ×	51,000	97,000	× × ×	61,000	× × ×	× × ×
外 注 費	105,000	× × ×	78,000	63,000	× × ×	82,000	415,000
経 費	85,000	13,000	× × ×	34,000	21,000	× × ×	263,000
合 計	638,000	175,000	× × ×	× × ×	× × ×	439,000	× × ×
期末の状況	完 成		未 完 成		完 成	未 完 成	—

未成工事支出金

（単位：円）

前期繰越	973,000	完成工事原価	× × ×
材 料 費	× × ×	次 期 繰 越	× × ×
労 務 費	381,000		
外 注 費	× × ×		
経 費	× × ×		
	× × ×		× × ×

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（20×7年11月30日）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。（30点）

<資料1>

合計試算表

20×7年11月15日現在

（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
2,110,000	現金	1,020,000
2,930,000	当座預金	1,260,000
1,780,000	受取手形	1,310,000
1,250,000	完成工事未収入金	925,000
1,553,000	材料	844,000
1,600,000	機械装置	
580,000	備品	
1,010,000	支払手形	1,968,000
999,000	工事未払金	1,989,000
981,000	借入金	2,839,000
811,000	未成工事受入金	1,877,000
	資本金	3,000,000
	完成工事高	4,641,000
1,772,000	材料費	
1,551,000	労務費	
1,298,000	外注費	
544,000	経費	
778,000	給料	
115,000	支払家賃	
11,000	支払利息	
21,673,000		21,673,000

<資料2> 20×7年11月16日から11月30日までの取引

- 16日 工事契約が成立し、前受金として¥180,000が当座預金に振り込まれた。
- 17日 完成し発注者に引渡し済である工事の未収代金¥310,000を小切手で受け取った。
- 18日 取立依頼中の約束手形¥230,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 19日 材料¥155,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。
- 20日 本社事務所の家賃¥105,000を、小切手を振り出して支払った。
 - 〃 下請業者から外注作業完了の報告があり、その代金¥233,000の請求を受けた。
- 23日 現場作業員の賃金¥290,000を現金で支払った。
 - 〃 本社事務員の給料¥260,000を現金で支払った。
- 24日 材料¥151,000を本社倉庫より工事現場に送った。
- 25日 現場の電気代¥35,000を現金で支払った。
- 26日 工事が完成して発注者へ引き渡し、工事代金¥1,480,000のうち、前受金¥360,000を差し引いた残金を請求した。
- 27日 外注工事の未払代金の支払いのため、約束手形¥441,000を振り出した。
- 30日 当社振出しの約束手形¥330,000が支払期日につき、当座預金から引き落とされた。
 - 〃 銀行から¥600,000の借入れを行い、その利息¥1,000が差し引かれ当座預金に入金となった。

〔第4問〕 次の文章の に入れるべき最も適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を解答欄に記入しなさい。（10点）

- (1) 固定資産の減価償却総額は、当該資産の a から b を差し引いて計算される。
- (2) 回収不能となった完成工事未収入金は簿記上、 c として費用で処理される。
- (3) 未払家賃は d 勘定に属し、前払利息は e 勘定に属する。

〈用語群〉

ア 取得原価	イ 時価	ウ 完成工事高	エ 残存価額	オ 完成工事原価
カ 貸倒損失	キ 貸倒引当金繰入額	ク 当座借越	コ 借入金	サ 資産
シ 負債	ス 収益			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されているN工務店の当会計年度（20×7年1月1日～20×7年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。（28点）

〈決算整理事項等〉

- (1) 現金の実際有高は¥551,000であった。帳簿残高との差額は雑損失として処理する。
- (2) 有価証券の時価は¥376,000である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して3%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (4) 機械装置（工事現場用）について¥83,000、備品（本社用）について¥35,000の減価償却費を計上する。
- (5) 支払家賃には前払分¥6,400が含まれている。
- (6) 利息の未収分が¥8,600ある。
- (7) 未成工事支出金の次期繰越額は¥1,132,000である。